

日時 2023/2/17 Fri. 14:00-16:00

場所 秋田公立美術大学アトリエももさだ

定員 30名 (予約不要、当日直接会場へいらしてください)

震災後の語りを記録しながら得た「11歳(小学校高学年)前後で体験したことが、その人のその後の人生に大きな影響を及ぼすのでは？」という問いから、11歳から100歳まで、各年齢につきひとりずつに「11歳の記憶」を中心にインタビューし、およそ90年の時差のある個人史が総覧できる場をつくる。世代の違うひとりひとりに、生活実感のこもった言葉で人生を語ってもらい、その語りが集まることで、変化著しかった90年あまりの日本社会の歩みを手触りのある形で現していく。

「11歳の記憶」とは

*修了展会期中、アトリエももさだの修了展イベントブースにて、小森はるか+瀬尾夏美「11歳だったわたしは」の映像を展示します。そちらも是非ご覧ください。

*17日の午前中からイベント開始前、瀬尾さんによる修了展作品講評会も併せて実施いたします。一般の来場者の方も作品鑑賞及び講評会の見学もできますので、ご自由にご参加ください。

お問い合わせ s218006@akibi.ac.jp (櫻井)

瀬尾夏美さん アーティストトーク

アーティストの瀬尾夏美さんのアーティストトークを実施します。災禍を受けた土地の人々と関わりながら制作をしてきた瀬尾さんのこれまでの10年と、現在取り組んでいる活動についてお聞きます。

トークの後、瀬尾さんが映像作家の小森はるかさんとユニットで2021年に制作した作品「11歳だったわたしは」の読書会を開催します。読むこと、話すことを通じて、一緒に自分自身のこれまでを思い出したり、誰かの話を聞いたりしてみませんか？



瀬尾 夏美

Seo Natsumi

1988年、東京都足立区生まれ。土地の人びとの言葉と風景の記録を考えながら、絵や文章をつくっている。2011年、東日本大震災のボランティア活動を契機に、映像作家の小森はるかとのユニットで制作を開始。現在は、東京を拠点にして“語れなさをテーマに各地を放し、物語を書いている”。

主催 秋田公立美術大学卒業・修了展 2023

企画 櫻井莉菜

チラシデザイン 三浦紗希